



# Nagkaisa News

No.14

## フィリピノナガイサ設立 30 周年記念式典



フィリピノナガイサは、1994年に浜松近郊に住むフィリピン人女性たちによって任意団体として設立されました。それから30年。昨年末2024年12月22日、浜松市のアビーチャーチにて設立30周年記念式典を行うことができました。当日は新旧のスタッフやサポートー、かつてナガイサの教室に在籍した生徒や保護者、またナガイサの活動にお力添えいただいた関係団体の皆さんなど多くの方々にご参列いただきました。式典ではスクリーンに映し出された懐かしい写真を見てはおしゃべりを楽しんだり、様々な立場の方々から心温まるスピーチをいただきながら30年を振り返りました。たくさん的人にフィリピノナガイサが支えられてきたこと、たくさんの人々にフィリピノナガイサでの交流や学びが大きな意味を与えたことを改めて感じることができ、感慨深いひとときとなりました。

フィリピノナガイサの活動は社会情勢やニーズの変化に応じて30年の間に変わってきた点もあります。しかしながら「この地域に住むすべての人々がより良く生きられる社会を作りたい」という思いは変わらないと思います。多文化共生社会の実現を目指してさらなるチャレンジをしてまいります。

この場をお借りして、日頃よりフィリピノナガイサの活動に賛同しご支援くださっている皆様に改めて感謝を申し上げます。

## 2024年度 事業報告

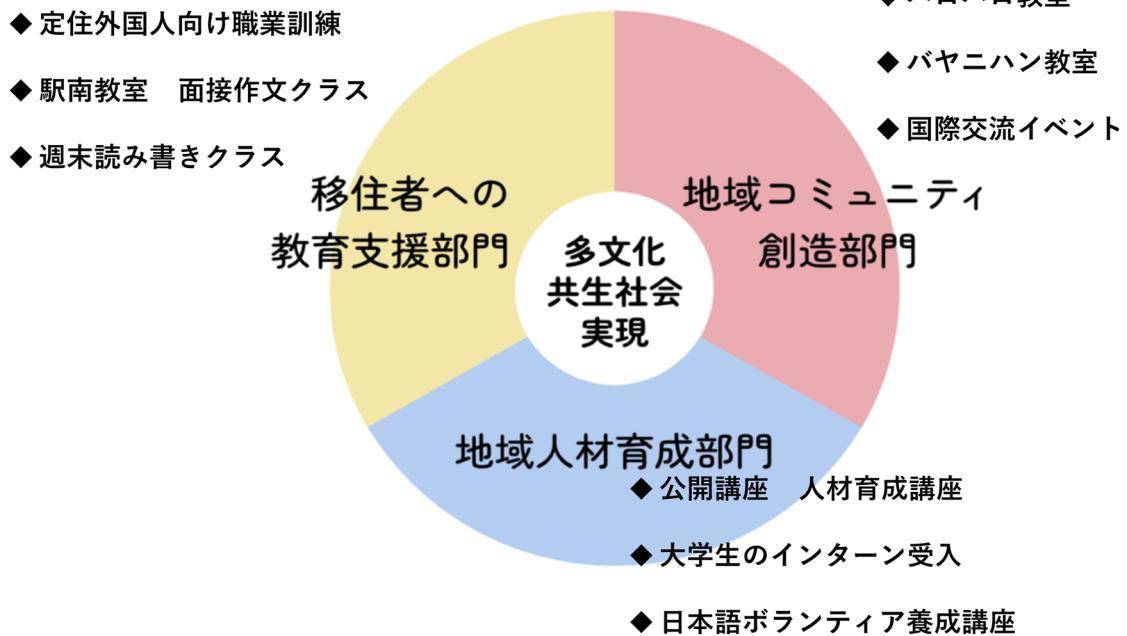
NPO法人フィリピノナガイサの定款には、「浜松市及びその近郊に暮らす在住フィリピン人に対して生活支援・社会教育活動を通じて日本人住民との相互理解を深めることを促し、自立・共生社会実現を目指すことを目的とする」とあります。任意団体として発足した1994年から30年、NPO法人になって12年、近年ではフィリピン人に限らず、南米やアジア諸国からの外国人住民もフィリピノナガイサの活動や教室に参加し、学習者の多国籍化が進んでいます。私たちは、外国人生活者が外国人のコミュニティに埋没してしまわないように、外国人生活者を日本社会とつなげようと活動しています。そのため私たちが果たしている役割は3つ。外国人生活者の身近な相談窓口であること、安心していつでも訪ねられる居場所であること、そしてより良い出口を提供できるハブであることです。

### 3つの役割



外国人生活者と日本社会が**双方向に繋がる**

## 2024年度 活動内容



3

それぞれの事業について、次ページより紹介してまいります。

## 2024年度 活動報告

### ハロハロ教室

(地域日本語学習支援事業 HICE委託)

毎週土曜日フィリピンにルーツを持つ子供たちが南部協働センターに集まります。子供たちはフィリピン人のバイリンガルスタッフや日本人のサポーターと一緒に勉強しています。主に宿題をしたり学校の授業についていくのが難しい漢字、算数、数学などの科目を手伝ってもらったりしています。子供たちはみんな浜松市内の異なる学校に通っていますが、この教室で顔を合わせるのをいつも楽しみにしています。2024年度は34名の子供たちが在籍しました。3月15日最後のハロハロ教室の日、授業が終わった後に楽しい修了式が行われました。全ての子供たちに努力証が授与されました。また、高校進学の決まった中学3年生をみんなでお祝いしました。（中村グレイス）



### バヤニハン教室

（「生活者としての外国人」のための特定のニーズに対応した日本語教育事業 文科省委託）

土曜日の午後、ハロハロ教室と同じ時間に隣の教室で大人（16歳以上）を対象としたバヤニハン教室を開催しました。令和6年度は延べ688名、各回30人前後の方にご参加いただきました。この教室では、それぞれ個々のニーズに合わせ様々なグループに分かれて学習したり、地域の情報を共有したりしました。グループでは、サポーターさんが、毎回寄りそって学習の支援をしてくださいます。そのサポー

ターをしてくださるのは、日本人だけでなくバイリンガルスタッフやかつてハロハロ教室・駅南教室に通っていた若者たちも多くいます。自分たちがしてきた勉強や経験を、今度は伝え支えたいと活躍しています。このサポートーの存在はとても大きく、特に来日間もない若者にとっては、とても心強い存在になっています。また、バヤニハン教室は日本語を学習する目的だけではなく、人との交流の場・居場所として毎週楽しみに参加される方も大勢います。この教室を通じて、横のつながりができるしていく様子がいたるところで見受けられました。

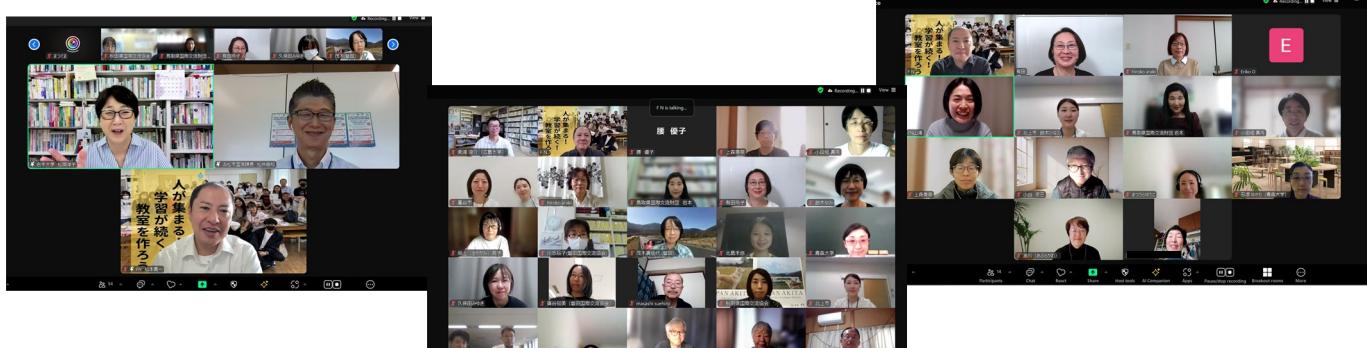
今後も、気軽に日本語学習ができる、困ったときは相談できる、いつ行ってもいい場所、そんな教室を続けていけたらと考えています。（坂口和代）



## バヤニハン公開講座・人材育成講座

文科省委託のバヤニハン事業では、多文化共生社会実現のために地域で活動する人材を育成する講座を行っています。令和6年度のテーマは前年度に引き続き「動機」。日本語教室を開催してもなかなか参加者が集まらないという悩みをよく耳にします。フィリピンナガイサと浜松市は外国人を地域日本語教室に取り込むためにどのようなきっかけをしているか、今までの取組の蓄積を紹介する公開講座をシンポジウム形式で行いました。また、地域日本語教室に求められている学び、評価の在り方について広島大学の南浦先生の公開講座も開催しました。二つの公開講座を踏まえたワークショップでは、参加者それぞれの活動する場でどのように学習者のニーズにこたえ学ぶ意欲を育てていけるかを考えました。全国から70名近くの方にご参加いただき、地域を超えた交流と学びの場を提供することができました。

（山浦優子）



## 駅南教室

(浜松市定住外国人の子供の就学促進事業 実施主体)

来日したばかりの子供（5～19歳）が日本で進学することを支援する教室です。フィリピンノナガイサでは若者支援に長らく取り組んできましたことから、特に十代後半のフィリピンの若者が来日直後にこの教室にやってきます。最近の新しい傾向としては、フィリピンだけでなくベトナム、インド、パキスタン、バングラディッシュなどから家族滞在ビザで来日する若者の増加があります。日本で高校を卒業すれば就労制限のない在留資格に変更できる可能性があるということで、高校進学は大きな意味を持っています。令和6年度は18名の外国ルーツの若者が入室しました。多感な年代で移住した彼らが、日本で将来を見通し学ぶ意欲を保ち続けることは大変なことです。様々な理由で進学を断念する若者もいます。学ぶ目標を明確に意識できるような工夫、持続できるような働きかけが大事だと感じています。また必要があれば別の形での学びの場へつなぐことも大切にしています。令和6年度は、この教室から10名の若者が市内の全日制や定時制の高校に進学しました。外国ルーツの若者の進学希望者は年々増加していますが、高校受検はまだまだ大きなハードルです。この地域に住みこの地域の将来を担う彼らがより良い人生を切り拓いていくために、進学という希望がかなえられるよう活動していきたいと思います。（山浦優子）



## 定住フィリピン人青年のための進路支援事業

(フィリピンノナガイサ自主事業 HICE助成金事業)

土曜日のハロハロ教室の後、高校受検を控えた中学3年生が面接試験と作文試験の準備をしています。1月11日には、駅南教室の生徒たちと合同で模擬面接試験が行われました。当日は、県立高等学校定時制の元教頭を試験官としてお招きしました。生徒たちは秋から面接練習に取り組んできました。頻出の質問とそれに対する自分の意見を日本語で暗記し、しっかりと答えられるよう一生懸命準備を重ねてきました。模擬面接試験では生徒一人一人が緊張しながらも、これまでの努力を出し切ろうと頑張っているようでした。

結果は自分のベストを尽くせた生徒、そうではない生徒と様々でしたが、多くの生徒は模擬面接試験を通して自分の新たな改善点に気づくことができたようでした。今回の結果に関わらず、本番の試験ではより良い面接ができるよう今後も練習を頑張っていこうと彼らは言っていました。彼らが夢を叶えられるよう、支援員一同今後もサポートを続けていこうと思います。

（鈴木エバ）



## 職業訓練

(離転職者訓練 (定住外国人向け) 販売サービス科①②・観光サービス科)

令和6年度は「定住外国人訓練」を3回実施しました。ビジネス日本語、パソコン（Word・Excel）、そして就職について学ぶ内容となっています。2019年度から開始した事業ですが、回を追うごとに元受講生からの紹介で受講する方が増えてきました。さらに受講者の多国籍化も進んでおり、現在ではフィリピン、

ブラジル、ペルー、中国、ボリビア、メキシコ、スペイン、ベトナムと広がっています。しかしながら受講までの手続きの壁が高く、訓練に辿り着けない希望者も多い点が課題となっています。

受講生の希望の多くは、「パソコンのスキルを身に付けたい」あるいは、「直接雇用の仕事に就きたい」というものです。実際のところ、初めてパソコンに触れた方が Excel の技能認定試験 3 級に合格したり、正社員として希望の職に就くことができたりもしています。

各科目的講師、経験豊富な通訳者等が、熱意あるきめ細かなサポートを行っています。（古橋好江）



## 日本語ボランティア養成講座

(地域日本語学習支援事業 HICE 委託)

浜松国際交流協会（以下、HICE）からの委託事業として、浜北地域活動研修センターにて、「日本語学習ボランティア養成講座」を実施しました。全 15 回のカリキュラムの中では、「外国人学習者の声」や「青年ロールモデルによる体験談」などの当事者の声を聞く機会や「ひょうたん島問題から多文化共生を考える」、「異文化理解」などのワークショップの実施、そして実習体験として「やさしい日本語使用体験」、「ボランティア体験実習」などを行いました。授業の様子は以下の QR コードでご覧になれます。

無事、養成講座を修了した皆さんは現在「週末読み書きクラス」のボランティアとして活躍しています。（松本義一）



## 週末読み書きクラス

(地域日本語学習支援事業 HICE 委託)

浜名区岩水寺駅の目の前にある「浜北地域・研修センター」にて、11 月から 2 月まで土曜日の午前中に「読み書きクラス」を計 10 回行いました。こちらのクラスには、ブラジル・ペルー・中国・インドネシア・パキスタンと多国籍の方々がご参加くださいました。また、こちらのクラスのボランティアさんの多くは、6 月から 9 月に開講していた「日本語ボランティア養成講座」を受講修了された方々です。クラスでは、「ひらがな」「カタカナ」「生活漢字」など 6 つのグループがあり、個々の進度に合わせて学習することができます。ボランティアさんはどのグループもほぼマンツーマンで支援してくれます。そのため、学習者さんから「とても分かりやすかった。」とのお声も聞かれ、満足度が高かったことがうかがえます。コミュニケーションをとりながら進めていくため、いつも和気あいあいとした雰囲気でした。（坂口和代）



## 大学生インターンシップ受入れ

昨年度から引き続き、静岡文化芸術大学日本語教員養成課程の教育実習生の受け入れを実施しました。2024年9月末から12月上旬までの約3ヶ月間、2名の大学生が教育実習として毎週土曜日の教室に参加してくれました。教壇実習では、「地域に住む日本語学習者の皆さんに、どんなことを知りたい・学びたい・できるようになりたいと思っているか?」を考えてもらい、そこから目的や目標を考え、授業案を作成し、実際に教壇実習を2回ずつ行ってもらいます。毎年、面白いテーマで授業を行ってもらうのですが、今年度の二人が考えてくれたテーマは「日本食」。日本食というテーマのもとに、「浜松のレストラン探し」や「ウェブ・アプリを使った予約の仕方」、「食育の観点からの三角食べの大切さ」など、盛りだくさんの内容で実習を行ってくれました。おかげさまで生徒たちの笑顔が溢れる時間となりました。（松本義一）



## 国際交流活動

はままつインターナショナル・フェスティバル 2024年12月28日、浜松市ギャラリーモールソラモで開催されました。このフェスティバルは、浜松市が掲げる「多文化共生都市づくり」の一環として毎年開催されています。フィリピノナガイサのダンス・グループはこのイベントでヒップホップとフィリピンの民族舞踊である「SINGKIL（シンキル）」を披露しました。SINGKILは、お姫様とその使用人たちによるバンブーダンスで、手拍子に合わせてリズミカルにそして優雅にステップを披露し、たくさんの観客を楽しませました。（佐藤エープリルリン）



2025年2月9日、浜松市最大級の多文化共生イベント「はままつグローバルフェア」がクリエート浜松にて行われました。フィリピノナガイサは、会場の一部屋でフィリピン語スピーチコンテストを開催しました。今年で4回目となったこのコンテスト。今回は地域日本語教室で活動している人、大学でフィリピン語を学んでいる人など様々なバックグラウンドをもつ10名の日本人がフィリピン語でのスピーチに挑戦しました。このコンテストはただスピーチの出来を競うのではありません。コンテストとフィリピノナガイサのフィリピン人スタッフがバディとなってスピーチの作成と練習に取り組みます。協力してより良いスピーチを作り上げること、たくさんの対話を通じお互いを理解すること、その過程を皆さん大事にして楽しんでくださいました。（山浦優子）



## 対外活動報告

令和6年度も地域の様々な団体とのコラボレーション企画や講座登壇の依頼をいただきました。

- 5月 浜松市外国人子供支援協議会 出席
- 6月 フィリピン名古屋領事館 フィリピン独立記念日記念イベント 出演  
浜松市立北浜小学校 やさしい日本語講座
- 7月 静岡県立浜松城北工業高等学校 出前講座
- 8月 浜松市外国人学習支援センター 日本語ボランティア養成講座 登壇
- 9月 浜松市立竜禅寺小学校・佐鳴台小学校・静岡県立浜名高等学校定時制課程 やさしい日本語講座  
浜松市シティプロモーション動画撮影に協力  
ふれあい交流センターいたや 訪問
- 10月 浜松市立篠原小学校・北浜東小学校 やさしい日本語講座  
静岡県立大学一般教養課程『静岡の市民活動』 講義  
インターナショナルシティシンポジウム 2024 浜松 登壇  
社会福祉法人天竜厚生会 厚生会まつり参加 静岡県文化芸術大学キャンパス訪問
- 11月 日本大学経済学部西山ゼミ・上智大学総合グローバル学部田中ゼミ ヒヤリング
- 2月 浜松市外国人学習支援センター 日本語ボランティア養成講座 登壇  
移民政策に関する有識者団体 ヒヤリング



### <会員募集中>

NPO 法人フィリピノナガイサはたくさんの方々にご支援いただき、在住フィリピン人をはじめとする外国人生活者の方々への支援活動をおこなっています。引き続き、安定した活動・運営を続けていくために、ご賛同・ご支援いただける団体・個人の会員を募集しています。

### <年会費>

賛助会員 大人: 6,000 円 賛助会員 子ども: 1,000 円  
賛助会員団体 一口: 10,000 円 より



会員登録ご希望の方は、の二次元コードから!  
追ってこちらからご連絡いたします。

### 編集 後記

おかげさまで2024年12月22日にフィリピノナガイサ創立30周年記念パーティーを開催することができました。25周年をお祝いした際に、「30周年は改まった形でお祝いしたいね。」と皆で話し合ったことを実際に形にできて大変嬉しく思います。30周年をお祝いするにあたり、テーマを「30年間の振り返り」としました。当日は、これまでに会を支えてくれた方々や元ナガイサ生徒などたくさんの懐かしい顔が揃い、30年間を振り返るスピーチもあり、楽しい会となりました。次は40周年!どんな会にしようかな~と今から楽しみです。(松)

### 2025年度フィリピノナガイサ スタッフ

代表理事 : 中村 グレイス  
: 松本 義一  
理事 : 鈴木 エバ  
平原 エテル  
山浦 優子  
吉田 佐織  
尾杉 はな  
上村 美貴子  
カリバヤン モリ  
カルバキル ジョヴァン  
坂口 和代  
佐藤 エーブリルリン  
高柳 史江  
只尾 ジェニファー  
田中 寛美  
チュウ ヴィンセント  
原田 マリアテレサ ティゾン  
古橋 好江  
監事 : 村松 正利

### <お問い合わせ>

Tel : 080-4308-8380(フィリピン語 中村) 090-9175-8380(日本語 松本)  
[filiphinonagkaisa@yahoo.co.jp](mailto:filiphinonagkaisa@yahoo.co.jp) <http://filipinonagkaisa.org/>